

所属・資格 社会福祉学科・教授

申請者氏名 太田 由加里

研究課題		子どものいじめにみる福祉的対応の模索-フィンランド独自のプログラム KiVa の実践から-
報告の概要	研究目的 および 研究概要	今や学校における不登校や引きこもりなどは、どの国においても子どもたちの将来に向けて喫緊に取り組むべき問題である。子どもたちの不登校や引きこもりの誘因となるのが、子どもたち相互のいじめであり、その相関関係は高い。不登校や引きこもり、いじめなどの教育および生活上の子どもの問題解決をめざし、独自の援助方法を開発、その予防に取り組み、成果をあげているのがフィンランドで実施されている KiVa プログラムである。本研究では、その KiVa を取り上げ、そのプログラム開発の始まりやこれまでの経緯、実際の取り組み方を通してその基本的理念や方法を学ぶ。その学びをもとに、日本に合ったプログラムを考える契機となればと考える。
	研究の結果	フィンランドでも大きな関心事であるいじめの予防対策について、教育省はトゥルク大学のクリスティナ・サルミバリ教授にそのプログラム作成を依頼、KiVa は、フィンランド語で Kiusaamista Vastaan の略で、いじめ反対を意味している。そのプログラムは、従来の加害者と被害者の両者への注目に加え、第三者としての傍観者に焦点をあて、いじめられている子どもへの対応、いじめ反対の意を子どもたちと共有する。保護者を含めた大人にもいじめ対策に関わる情報を提供することが、いじめ減少に効果的な影響をもたらすとしている。子どもたちのグループワークを通して子ども自身がいじめ予防に関するスキルを身に付けていくことなどが明らかとなった。
	研究の考察・反省	いじめ防止に関わるさまざまな職種の人たちへの研修もオンラインやゲームを活用しての方法が提案されている。KiVa についても、特別な方法が提示されているわけではない。今までいじめ対策に登場しなかった傍観者の存在に焦点をあて、子どもたち同士の対話によって、子ども自身に力をつけることで解決の方向性を考えている。この方法は、今後の日本のいじめ予防や対策にも資することになるだろう。2019 年 8 月、フィンランドで小学生やその保護者に KiVa についてのヒアリングを実施した。地域によっては、まだこのプログラムを周知していない学校もあり、フィンランドの一部での実施であることを把握した。今後はその効果を可視化し、その効果が子どもたちのいじめ減少にどのような影響をもたらすかを明らかにしたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 研究成果物 ・『「子ども人間学」における思想と実践』生田久美子・安村清美編（共著）第 7 章「フィンランドにみる子どもへの視座」北樹出版 2020 年 3 月
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	・『戦前日本社会事業調査資料集成別巻』社会福祉調査研究会編（共著）大空社出版 2019 年 12 月